

PRESS RELEASE

2026年9月吉日

一般社団法人ドリームキッズ・アフリカ協会

あなたの靴が、誰かの夢への第一歩になる。

「ドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクト」始動



～5年間で累計10万足以上の靴と応援メッセージをアフリカへ。海を越えて戻ってくる笑顔と返事が、日本とアフリカの子どもたちの心をつなぐ～

株式会社P-UP World（本社：東京都足立区千住1-4-1、代表取締役 兼CEO：中込 正典）は、「一般社団法人ドリームキッズ・アフリカ協会」を設立し、日本で使われなくなったスポーツシューズやスニーカーを回収してアフリカ諸国の子どもたちへ届ける「ドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクト」を始動します。

本プロジェクトは、靴という「物」の寄贈にとどまらず、日本の子どもたちからの手紙や応援メッセージを届けるとともに、現地の子どもたちの写真や映像、返事のメッセージを日本の子どもたちへ届けることで、国境を越えた交流を生み出す取り組みです。

さらに、現地パートナーと連携し、マラソンやサッカーなどの継続的なスポーツ支援活動を展開します。スポーツを通じた教育機会の創出や健康増進、子どもたちの将来の可能性の拡大を目指し、2026年度は年間10,000足以上、5年間で累計100,000足以上の寄贈を目標に掲げています。

■「ドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクト」とは

本プロジェクトは、日本国内で使われなくなったスポーツシューズやスニーカーを回収し、アフリカ諸国の子どもたちへ届ける国際社会貢献活動です。靴の寄贈に加えて、現地におけるマラソンやサッカーなどのスポーツ支援活動、日本とアフリカ諸国の子どもたちの交流を継続的に実施します。

日本国内に眠るスポーツ用品を循環させながら、アフリカ諸国の子どもたちの健康や教育、スポーツに参加する機会を支援することで、SDGs達成への貢献を目指します。

■プロジェクト概要

プロジェクト名： ドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクト

支援対象国： ケニア共和国・ギニア共和国・セネガル共和国・カメルーン共和国・コンゴ民主共和国を含むアフリカ諸国

主催・総合プロデュース： 一般社団法人ドリームキッズ・アフリカ協会

運営協力： 一般社団法人A-GOAL、一般社団法人インスパイアアフリカ協会

現地協力： 一般社団法人A-GOAL、現地の学校・スポーツ関連団体

日本側協力パートナー： Kids UP、青山学院、株式会社MPandC、賛同学校、足立区ほか

主な活動： スポーツシューズやスニーカーの回収・寄贈、日本とアフリカ諸国の子どもたちによる手紙・応援メッセージ・映像を通じた交流、マラソンやサッカーなどのスポーツ支援など

活動目標： 2026年度に年間10,000足以上、5年間で累計100,000足以上の寄贈

特設サイト： <https://www.dreamkidsafrica.org/>

■プロジェクト発足の背景

アフリカ諸国の一部地域では、適切な靴を持たずに日常生活や遠距離の通学、スポーツを行っている子どもたちがいます。素足での生活は単に不便であるだけでなく、土壌に潜む寄生虫や破傷風、鋭利なごみによる感染症・外傷のリスクのほか、足の痛みによる通学や日常生活への支障、スポーツや社会活動への参加機会の減少など、子どもたちの将来の可能性にも影響を与えます。

一方、日本国内では、子どもの成長によるサイズアウトや部活動の引退、モデルの買い替えなどにより、破損しておらず、まだ十分に履くことのできるスポーツシューズやスニーカーが、廃棄されたり家庭内に眠ったままになったりしています。本プロジェクトでは、日本に眠

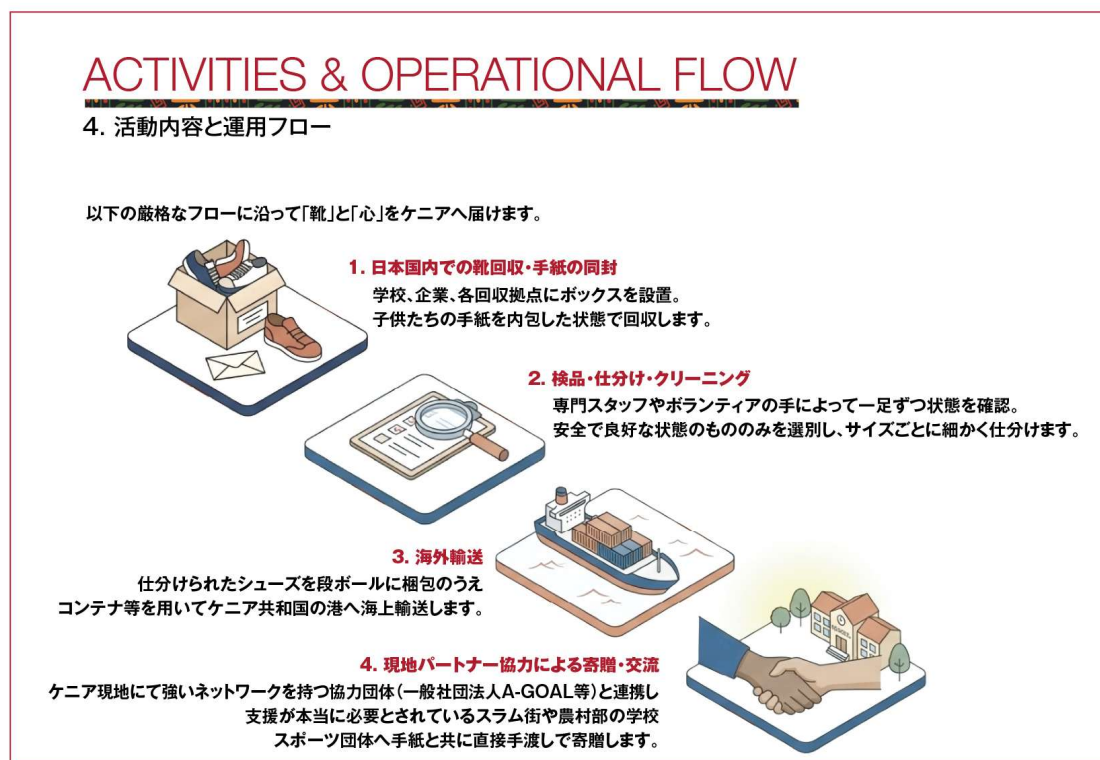
るスポーツシューズやスニーカーを「資源」として循環させ、靴を必要としているアフリカ諸国の子どもたちへ届けます。

■プロジェクトの目標

本プロジェクトが目指すのは、物資を一方的に送るだけの支援ではありません。日本の子どもたちとアフリカ諸国の子どもたちが、靴やメッセージを通じて互いの存在を知り、国境を越えて心を通わせる機会をつくります。

1. 靴に手紙や応援メッセージを同封し、一足の靴とともに海を越えた同世代からの温かな想いを届けます。
2. 日本の子どもたちから寄せられたメッセージを、靴の寄贈時にアフリカ諸国の子どもたちへ共有します。
3. 靴を受け取ったアフリカ諸国の子どもたちの写真や映像、返事のメッセージを日本の子どもたちへフィードバックし、継続的な心のつながりを育みます。

■回収した靴がアフリカ諸国の子どもたちへ届くまでのフロー



■寄贈目標

2026年度は、年間10,000足以上のスポーツシューズやスニーカーの回収と寄贈を目指します。さらに、学校、企業、各種団体と連携した回収ネットワークを構築し、5年間で累計100,000足以上を届ける全国規模の活動へと発展させていきます。

回収活動には、以下の企業・学校・団体などが参加予定です。

- 常設：一部ソフトバンクショップ（株式会社ピーアップが運営する店舗）
- 期間限定：Kids UP、青山学院ほか

■プロジェクトアンバサダー

スポーツの力を通じた現地の子どもたちのエンパワーメントを推進するため、各界を代表する指導者・リーダーをプロジェクトアンバサダーとして迎えます。



原 晋氏（青山学院大学 陸上競技部 長距離ブロック監督）

青山学院大学陸上競技部長距離ブロック監督の原晋です。

このたび、ドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクトのアンバサダーに就任しました。

青山学院の駅伝チームには海外の選手はいませんが、私が駅伝ダイレクターを務めるGMOインターネットグループ陸上部には、現在3名のアフリカ・ケニア出身の選手が在籍し、活躍しています。今回のドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクトは、まだ履くことができる使用済みのシューズを、5年間で10万足、アフリカの子どもたちに届ける取り組みです。この取り組みを通じて、一人でも多くのアフリカの子どもたちが夢を持ち、駅伝やマラソン選手を目指してくれると嬉しいです。皆さん、ぜひ1足でも多くのシューズをアフリカの子どもたちのためにご提供ください。ランニングシューズで世界平和大作戦、始動!!



柱谷 哲二氏（元サッカー日本代表キャプテン／指導者）

サッカー元日本代表キャプテン、現在は明海大学体育会サッカー部監督の柱谷哲二です。

このたび、ドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクトのアンバサダーに就任しました。今年はサッカーワールドカップがアメリカ・カナダ・メキシコの3か国で開催され、アフリカからは9か国が出場するなど、アフリカではサッカーが非常に人気のあるスポ

ーツです。多くの子どもたちがサッカー選手になることを夢見ています。しかしながら、多くの子どもたちはサッカーシューズを買うことができず、破れたシューズやサンダル、時には裸足でサッカーをしています。そのため、怪我をしてサッカーができなくなったり、命を落としてしまう子どももいるという悲しい現実があります。今回のドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクトを通じて、一人でも多くの子どもたちに笑顔になってほしいと思っています。1足でも多くのサッカーシューズを集め、アフリカの子どもたちに届けたいと思いますので、皆さんぜひご協力ください。

■プロジェクト代表コメント

日本では小さくなって履けなくなった子供の靴が、アフリカの子どもたちにとっては、学校へ通い、外で遊び、夢へ向かって歩き出す大切な一足になります。私たちが届けたいのは、靴だけではありません。「誰かの役に立ちたい」という日本の子どもたちの優しい心です。その優しさが海を越え、笑顔と希望に変わり、日本とアフリカの子どもたちの心を繋いでいく。私たちは、一足の靴から世界を少しずつ変えていけると信じています。責任を持ってお届けします。

■今後の活動スケジュール

2026年9月10日 | プロジェクト始動イベント：プロジェクト発表会の開催、靴の回収受付開始

2026年9月～12月 | 全国での靴の回収：Kids UP、一部ソフトバンクショップ、学校などの回収拠点で靴とメッセージを受付

2027年1月～3月 | ケニアへの発送準備・輸送：集まった靴の検品・梱包を経て、船便でケニアへ発送

2027年4月～6月 | ケニアでの靴の届け・交流：現地の子どもたちへ靴を届け、スポーツ交流を実施。活動の様子を日本へ報告

※回収状況や輸送状況によって、スケジュールが前後する場合があります。

■株式会社P-UP Worldについて

株式会社P-UP World（本社：東京都足立区千住1-4-1、代表取締役 兼CEO：中込 正典）は、1998年の創業以来、携帯電話販売事業を起点に成長を続け、2020年に持株会社体制へ移行しました。現在はモバイル通信事業を中核に、英語学童保育「Kids UP」をはじめとする教育事業、飲食事業、コンサルティング事業など幅広い領域で事業を展開しています。資本金1億円、連結従業員数は約1,600名。本プロジェクトでは主体となって一般社団法人ドリームキッズ・アフリカ協会を設立し、スポーツを通じた国際社会貢献に取り組んでいます。

■一般社団法人ドリームキッズ・アフリカ協会について

一般社団法人ドリームキッズ・アフリカ協会（所在地：東京都足立区千住1丁目4番1号）は、「ドリームキッズ・アフリカ&スポーツ支援プロジェクト」の推進を目的として、株式会社P-U P Worldが主体となり2026年7月に設立した非営利法人です。日本国内で使われなくなったスポーツシューズの回収・寄贈活動をはじめ、アフリカ諸国の子どもたちへのスポーツ支援、日本とアフリカ諸国の子どもたちの交流促進を主な活動として展開します。学校、企業、現地パートナーなどと連携しながら、スポーツを通じた教育機会の創出と子どもたちの可能性の拡大に取り組んでいます。